

6月10日（水）

おはようございます。

この前日曜美術館を見ていたら、ピーター・ドラッカーの話をしていました。ピーター・ドラッカーというのは、経営学者ですが、少し前に岩崎夏海（いわさきなつみ）さんという人が「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」という単行本を出してベストセラーになりました。それで、ドラッカーの経営学がもう一回見直されたりして、大変なブームになったのです。

このドラッカーさんは 2005 年に亡くなっています。90 歳を超えて長寿でした。彼が、日本画収集の趣味を持っていたのはわりに知られています。この日本画の収集に関連して日本画へのものすごいこだわりの話がありました。特に印象に残ったのは、江戸時代の白隠（はくいん）というお坊さんの話でした。彼は禅宗のお坊さんで、臨済宗の中興の祖といわれる人です。今の静岡県を中心に活躍をした人です。彼は腹式呼吸とも深いつながりがありその実践をした人です。その白隠が、ノイローゼになるくらい修行をして 42 歳で、悟りの境地を得たと言っている。それ以降ものすごい衆生済度、つまり一般の人のお役に立つことを一生懸命やった。そのひとつに、禅画と呼ばれる絵を描いた。たとえば観音さんの絵を描いたりしたのを諸君等も見たことあるかもしれませんが、彼は達磨さんの絵を描いたのです。

達磨大師というのは禅宗の祖ですが、その達磨さんの絵をたくさん描いた。五〇代から六〇代、七十代そして結局八十代になるまで達磨さんの絵を描き続けたのです。しかも年を経るごとにその達磨さんの絵が、迫力を増していくのです。ドラッカーが言っている話ですが、あるとき、その絵を描くにはあなたどのくらいの時間かかりますかと白隠禅師は尋ねられた。要するに達磨さんの絵が描けるようになるには何年かかりますかという質問です。すると白隠は、10 分と 80 年かかると答えたという。古典の先生に今聞いてみたら、10 分という単位は古典のことばにはあまりないようで、おそらくは 30 分、あるいは一時（いっとき）と言ったのかもしれませんが、まあ絵を描くのはいっときだけれども、その背景として 80 年分の自分の人生がかかると答えたのです。要するに 80 年かかると答えた、80 歳のときに 80 年かかると。

これをドラッカーは次のように言うのです。80 年かかるというこの言葉は非常に深い言葉だ。なぜかというと、おそらくレンブラントは自分の自画像描くのに 80 年かかるとおそらく言うだろう。あるいはクロード・モネは、光の表現ができるのに、自分は 80 年かかったとおそらく答えるであろう、と。ところがクロード・モネやレンブラントがかかった 80 年と、白隠禅師がかかった 80 年とは意味が違ふのだ。おそらくはレンブラントやあるいはクロード

・モネが、かかった 80 年は、その技術を体得するための 80 年であろうと。ところが白隠の 80 年は、その達磨を描く（表現する）境地、自分の心をずっと進めていって、そのなかで達した境地を達磨として表現しているのだ。だからその 80 歳の達磨を描くためには、そのときには体も弱って動けなくて目も見えなくなって耳も聞こえなくなって動けなくなっているにもかかわらず、50 や 60 歳で描いたときの達磨よりも、はるかに迫力のある達磨を描いていた。この達磨を描けたのは、要するに 80 年間の自分の、自分と心と向き合って、自分の成長を遂げさせるように努力してきたその成果だということがほんとうの意味だ。だから西洋の画家、レンブラントの 80 年と白隠禅師の 80 年とはぜんぜん違うのだということをドラッカーが言っている。これこそが日本のすごさであり、これこそが日本の奥ゆかしさ、奥深さだということをやっているのです。その自分の心の境地は枯れていく、そしてそういうことを大切にしている。これはまさに仏教の文化です。自分の心の境地をいかにあげていくかということがやはり絵に表れていて、彼はすごく惹かれたという。白隠禅師もほかの文人画でもそうですが、世界史とか日本史を勉強した人は知っているでしょうが、素人なのです。専門の画家ではないのです。ところがドラッカーはその絵にもものすごく惹かれたという。それがわかったドラッカーもすごいですが、そういうところがですね、日本の文化のなかにはあるのです。

僕はよく自分の心をどうやって成長させるかということ言いますが、これはやはり日本の文化のなかであって、すばらしいものだと思うのです。ドラッカーはそこに心打たれて、自分の心が乱れたときに自分の心を整えるのに白隠禅師の絵をみていたということを書いています。自分の心をどうやって成長させていくか、こういう課題の持ち方が日本の文化のなかにはあり、日本のこれはすごいところだと言ったのです。

清風ではいつもそういうことを言いますが、自分の心をどうやって成長させていくか。これはごまかしがききません。他の人と比べてどうかということではありませんから。日を追うごとに、昨日の僕の心とくらべてどうかと、自分と上手に向き合って、自分の心を上手に育てていく。これが日本の文化であり、清風のめざすところだと思います。そういうことをこころがけて、しっかり関心を持って、自分の心の成長を遂げていってほしいと思います。今朝の話はこれで終わります。

（ 学校長 ）